

# 脳血管内風船治療も 選択肢のひとつ

「突然、手足が一時的に先端に装着した風船(バルーン)を膨らませることで狭くなった血管を広げる脳血管内バルーンカテーテル治療(経皮的脳血管形成術)、いわゆる「脳血管内風船治療」がそれだ。

## 頭蓋内脳血管狭窄症

「病気が原因で狭くなった血管の長さが2〜3ミリ、5ミリ未満ならば、安全にバルーンで広げられ、再び狭窄することもほとんどありません」  
こう指摘するのは、経皮的脳血管形成術のパイオニア、森貴久脳卒中センター長

### 森 貴久 脳卒中センター長

湘南鎌倉総合病院  
(神奈川県鎌倉市)



センター長である。

対象となるのは頭蓋内の太い動脈である、内頸動脈や中大脳動脈、椎骨動脈に脳底動脈など。血管の内壁にコレステロールなどが沈着するアテローム性動脈硬化の進行で起きる狭窄だ。

「血液を固まりにくくする抗血小板薬による薬物療法と、動脈硬化の原因となる高血圧や糖尿病、脂質異常症、肥満、喫煙などの生活習慣病に対する

内科的治療が最も重要で基本です。しかし、それは狭窄の進行を予防するのが基本で、血管の拡張を期待するのは難しいかもしれません」

### 内科的治療だけでは不十分なとき

経皮的脳血管形成術は内科的治療だけでは脳梗塞の発症を予防できないと考えられるケースや、心配のあまり日常生活が送れないと訴える患者などを対象に行う。「そもそも一過性脳虚血



い。髪の毛一本分の隙間(直径0.1〜1mm前後)にべて手首や腕の動脈からカテーテルを挿入する。「足の付け根の大腿動脈からカテーテルを挿入する方法が主流ですが、このやり方では心臓近くの大動脈弓から頭蓋内脳血管へカテーテルの先端を上げられないケースもありますし、術後、患者さんは何時間も寝返りもできず、座ることもできません。腕から治療を受けるとすぐに座ることができ、とても楽です」  
それで森センター長が新たに手首や腕の動脈からカテーテル治療をできる方法を考案・確立した。脳動脈に高度な狭窄が見つかったときは、経皮的脳血管形成術についても主治医と相談してみるとよいだろう。

診 受  
したい  
フザ  
眼鏡医師  
連載63